

平成 20 年度事業報告書

学校法人大垣女子短期大学

I 法人の概要

- 1 設置する学校・学科
- 2 入学定員、学生数等の状況
- 3 役員
- 4 教員組織

II 事業の概要

- 1 学校法人の管理・運営
- 2 教育目的・目標

III 財務の概要

- 1 財務運営について
- 2 資金収支計算書及び消費収支計算書の概要
- 3 貸借対照表の概要
- 4 資金及び消費収支計算書の経年比較

I 法人の概要

1 設置する学校・学科

(1) 設置する学校

学校名 大垣女子短期大学

所在地 岐阜県大垣市西之川町1丁目109番地

(2) 設置する学科(平成21年3月31日現在)

大垣女子短期大学の現在の設置学科

幼児教育科

音楽総合科

デザイン美術科

歯科衛生科

2 入学定員、学生数等の状況

項目	入学定員	収容定員
幼児教育科	100	300
音楽総合科	50	100
デザイン美術科	80	160
歯科衛生科	50	210
合計	280	770

学生数の推移

区分	学年	本年度学生数				前年度学生数			備考
		21年度 期首	本年度 期首	期末	増減	期首	期末	増減	
幼児教育科	1	23	24	22	-2	55	48	-7	期首…4月 1日現在 期末…3月31日現在
	2	22	50	45	-5	105	102	-3	
	3	45	-	-	-	-	-	-	
	計	90	74	67	-7	160	150	-10	20年度期首学生数補足
音楽総合科	1	42	46	44	-2	69	67	-2	幼児教育科2年生 留年者2名含 音楽総合科2年生
	2	44	68	67	-1	48	46	-2	
	計	86	114	111	-3	117	113	-4	
デザイン美術科	1	54	85	83	-2	74	72	-2	留年者1名含 歯科衛生科3年生 留年者3名含
	2	83	72	72	0	55	55	0	
	計	137	157	155	-2	129	127	-2	
歯科衛生科	1	19	34	30	-4	52	47	-5	21年度期首学生数補足 歯科衛生科3年生 留年者3名含
	2	30	47	44	-3	55	54	-1	
	3	47	57	56	-1	80	74	-6	
	計	96	138	130	-8	187	175	-12	
合計	1	138	189	179	-10	250	234	-16	
	2	179	237	228	-9	263	257	-6	
	3	92	57	56	-1	80	74	-6	
	計	409	483	463	-20	593	565	-28	

3 役員

理事	理事長	山田 實紘	監事	子安 一徳
理事	学長	中野 哲	監事	矢橋 慎哉
理事	常務理事	榎本 律男		
理事	デザイン美術科 教授	篠田 英男		
理事		高木 幹正		
理事		田中 勝英		
理事		平林 佳郎		
理事		水谷 一子		

4 教員組織

大垣女子短期大学の専任教員表

学 科 名	専 任 教 員 数				設置基準 で定める 教員数	備考
	教授	准教授	講師	計		
幼児教育科	4	1	7	12	11	
音楽総合科	2	0	3	5	5	
デザイン美術科	4	2	1	7	7	
歯科衛生科	4	4	4	12	10	学長含む
(小 計)	14	7	15	36	33	
全体の入学定員数に 応じて定められる専任 教員数 (一般教養分)					5	
(合 計)	14	7	15	36	38	

II 事業の概要

1 学校法人の運営・管理

平成 20 年度 理事会開催状況

開催日	主 な 議 案	現 員 数	出 席 数	内 委 任 状	欠 席 数	監 事 出 席	出 席 率 %
平成 20 年 5 月 21 日(水)	平成 19 年度決算に係る除却について 平成 19 年度決算及び事業報告について 平成 20 年度特別奨学生・特別給付生について 評議員の選任及び推薦について (報告)本学の現状について	11	11	2	0	0	100
9 月 26 日(金)	寄附行為の変更について 平成 21 年度事業計画及び予算編成方針について 規程の制定・一部改正及び廃止について	11	11	2	0	0	100
11 月 21 日(金)	学長の決定について 理事の選任について 監事の選出について 評議員の推薦並びに選任について	11	11	2	0	1	100
12 月 19 日(金)	規程の一部改正について 事務職員の昇格及び異動について 事務職員の採用について 平成 21 年度安田特別奨学生について	11	11	2	0	0	100
平成 21 年 2 月 20 日(金)	事務職員の採用について 個別雇用契約による職員の採用について 規程の制定及び一部改正について 学則の一部改正について 管理職の新任と更新について 評議員の選任について (報告)職員の退職について	11	11	2	0	1	100
3 月 1 日(日)	理事長の選任について 常務理事の選任について 役員報酬の改正について	8	8	0	0	1	100
3 月 23 日(月)	平成 20 年度収支補正予算(案)について 平成 21 年度収支予算(案)について 平成 21 年度収支予算に係る事前発注について 個別雇用契約による職員の採用について 副学長及び管理職の任命について 規程の制定及び一部改正について	8	8	2	0	0	100
平成 20 年度 合 計		71	71	12	0	3	100

平成 20 年度 評議員会開催状況

開催日	主 な 議 案	現 員 数	出 席 数	内 委 任 状	欠 席 数	出 席 率 %
5 月 26 日(月)	平成 19 年度決算及び事業報告について 評議員の選任について (報告)評議員の選任について 本学の現状について	27	26	7	1	96.3
9 月 22 日(月)	寄附行為の変更について 平成 21 年度事業計画及び予算編成方針について	28	27	7	1	96.4
11 月 26 日(水)	評議員の選任について 理事の選任について 監事の選出について	28	26	6	2	92.9
3 月 18 日(水)	平成 19 年度収支補正予算(案)について 平成 20 年度収支予算(案)について 理事の選任について	22	22	3	0	100
平成 20 年度 合 計		105	101	23	4	96.2

2 教育目的・教育目標

(1) 基本理念

「中庸を旨とし、勤労を尊び、職業人としての総合能力を有する人間性豊かな人材の養成」という「建学の精神」に基づく人材の養成を基本理念とする。

(2) 教育方針

①学生中心の教育

学生が「自ら学ぶ」、「自己研鑽」の基本姿勢により、積極的に専門的知識、技術を修得できるように指導する。教員は学生の授業評価を受け、わかり易い教育技術の研鑽を継続する。

また、一般教養科目をできるだけ修得させ常識を養い、文化サークル、スポーツクラブなどの課外活動を通じて、各科の教職員や学生相互の交流を促し、人間性を磨いて心身を充実させ、また「学生相談室」、「保健室」の機能を活発化し、学生の心身の健全な成長を促進し、心身ともに自律できるようにする。

②徳育を重視し、知育、体育とバランスのとれた教育

規律正しい学園生活によって、一般的教養、社会的規範を広く身につけ社会に受け入れられる心身が健全な人間の育成に取り組む。すなわち知育、体育の両輪の上に徳育を位置づけた教育を徹底する。こうして規律を守り、人の和を重視する教育によって一般社会に貢献できる教育を目指し、品位のある学生に育てたい。

③環境重視の教育

環境を人間同士、人と環境が融合した有機体であるとの考えに基づいて、学生に明るく楽しいキャンパスで、自然の偉大さ等を感じながら勉強できる場を提供したい。CHARMING campus はそれを具現化する環境であり、健康的で明るく、楽しい学園生活から感性と知性の溢れる学生を育てたい。このような環境から「感動するところ」が育ち、課外活動で他科の教職員や学生との触れ合いから協調性のある「和の精神」が育ち、学生個々に秘められた能力を引き出し、自分を律する力、自律力をつけさせたい。

環境重視の本学では、全館禁煙、国際環境規格 ISO14001 も認証取得、全館の耐震工事も完了している。さらに学生自身が食生活を中心とする日常の生活に関心を抱き、健康に気をつけ、それを阻害する要因を是正する努力をし、その他の環境汚染や環境破壊などの予防ができるような教育を目指したい。

④地域社会との協調性の教育

機会あるごとに地域社会の活動に参画して、地域社会との連携を強めて立派な社会人になるための教育を実践し、社会に貢献できる人材を養成したい。すでに大垣市とは様々な分野で協調する包括的な地域協定を締結し、大垣市と共同して「子育てサロン」を開設し、地域住民に喜ばれている。各企業へのインターンシップ制度も積極的に導入し、学生が自発的に地域のボランティア活動や地域が開催する事業に積極的に参画するように勧めるよう指導したい。

(3) 各学科教育目標とその達成状況

【幼児教育科】

幼児教育科においては、本学の建学の精神を基盤とした全学の教育基本理念のもとに、①豊かな人間性と強い使命感を基盤に確実な知識と技能に支えられた実践的指導力を持って、国の未来を築く子どもたち一人ひとりを大切に育てていける保育者の育成を目指すことと、②社会的要請や子どもの変化に対応しつつ、子どもとその発達について理解することを基盤とした、実践的指導力や実務能力を十分身につけた保育者として、実社会で活躍できる人材の育成を図ることを学科教育目標として指導と支援を行ってきた。

特に3年制課程を段階的に見通しながら、確実に保育者としての実践的指導力と実務能力を習得できる教育課程づくりを学年進行で段階的に進めてきた。また総合短期大学としての本学の特色を活かした授業づくりと社会的要請と結びつく特色ある教科の新設や充実を行い、加えて教職員のきめ細かい指導と支援体制の一層の充実に努めてきた。

本年度はこれら教育目標の達成を目指し、①3年制課程の特色ある教育課程と授業づくりと研修施設の確保などの達成、②魅力ある幼児教育科づくりを進め、これを積極的にアピールする入学者増加に向けた取組、③教育内容と学修支援の確実な充実を図り、わかりやすい授業づくりへの取組と研究、④保育に関する実習の充実を図り、そのための指導・支援の徹底、⑤みずき祭・幼児教育祭・幼教合宿等の行事を生かして学修成果発表の機会や地域貢献の充実、⑥チューターを中心として保育職を中心とした進路実現に向けた組織的支援など6つを柱とする重点努力目標を設定し、すべての学科教員で共通認識と理解を図りながら具体的な取組を積み重ね、教育目標の具現化に向けて努力してきた。

この結果、3年制課程第1期生であり「保育者に必要な基本的な知識と技能を身につける段階」の2年次生については、幼教合宿やみずき祭、各種のイベントやボランティア活動で学修成果を発表するとともに、「こども祭（幼児教育祭から名称変更）」で中心となって様々な活動を行い、着実な成長が認められるとともに大きな成果を上げることができた。そして本年度から実施した保育士国家試験に準じた内容の「保育総合試験（筆記及び実技）」でも、若干の再試験実施者はあったものの受験者全員が合格することができた。さらに平成21年度から開講する「保育実務研修」に向けて、大垣市（公立4園、私立5園）と周辺地域（私立6園）の保育所と協定を締結して研修園が確保できた。

また「保育者に必要な人間性と使命感を身につける段階」と位置づけた1年次生については、共通科目や「総合演習」「幼児教育特講」で教養を基盤とした人間性を涵養するとともに、卒業生として活躍する先輩保育者との交流、全員での保育所におけるボランティア活動、保育所実習などに取り組めた。一部に基礎学

力やコミュニケーション能力の向上などの課題なども見られるが、多くの学生にとって保育者としての使命感を確実に体得することができた1年間になったと考えられる。

さらに1、2年次生をとおして、本学の「子育てサロン」などの地域と連携した子育て支援事業を活用した授業方法改善の取組が文科省の「教育GP」に選定されたことから、「子育てサロン」や数多くの関連行事に学生が取り組み、一層実践的な学習活動を行えた。こうしたこともふまえ、3年制課程の完成年度にあたる平成21年度にあっても、保育者として必要な基本的な知識と技能を確実に身につけるため、日々の授業はもとより、研修や実習等の学外活動を通して充実した学修を積み重ねていけるよう、本学理念と学科教育目標の達成を目指して学生への指導と支援を行っていききたい。

【音楽総合科】

音楽総合科の教育目標として、専門知識を身につけ、音楽における感動、歓びなどの感性を磨くことにより、豊かな人間性を育むことを大きなテーマとしてきた。専門技能だけでなく、音楽を通しての人間教育にも重点を置き教育を行った。

この目標の達成のため、ピアノ・電子オルガンコースにおいては、個人レッスンで各々の到達点を設け、その到達度に応じた厳格な評価を実施した結果、今まで以上のレベルアップに繋がった。また、ヤマハ、カワイなどのグレードに関する授業をより充実させたことによって、グレード試験合格者を多数出すことができた。更に、ショッピングモール、イベントなどでの学外演奏の機会を増やし、地域の方々に喜んでいただける歓びを経験させることができた。この取り組みは、学生個々の感性を養うこととなった。備品として、ヤマハエレクトーン「STAGEA」を1台追加し計4台となり、電子オルガンの練習を充実させることができた。

ウインドアンサンブルコースでは、聴衆の方々により楽しんでいただけるよう、聴衆一体型のコンサートに力を注いできた。その結果、聴衆の方々が喜んでくださることに比例し、学生の意欲が増し、今まで以上に個々のレベルアップが図れた。また、学外でのマナーに関し、挨拶、返事、俊敏な動きを徹底した。毎年冬に開催しているウインドアンサンブルフェスティバルでは、恒例のリクエストコーナーを更に充実させ、ゲストに全国的に著名なドラム奏者の阿野次男氏を迎え、一般の方々にも十分楽しんでいただけるコンサートにすべく工夫した。その結果、定員604席の文化ホールで、実数750名を超える来場者があり大盛況であった。

音楽療法コースでは、学外でのボランティア活動の機会を増やし、施設などの現場において学習成果の発表をすることにより、学生の意欲増大、将来の仕事への意識を明確にさせることができた。

学科全体としては、まず「評価の厳格化」を実践した。学生各々に示した到達点、出席日数、受講態度などを、厳格に評価した。年度初めに周知を徹底したため、学生の学習意欲に大きな変化が見られた。更に「地域社会への貢献」も大きな目標の一つであった。前述通り、各コース工夫を凝らし、地域の方々には喜んでいただけたものと自負している。また学生にとって日頃の練習、レッスンなどでは決して身につけることのできない「本番での演奏・発表」を経験させることができた。21年度から導入される定期試験においても、「緊張感のある中での演奏・発表」が、更に演奏力・発表力の向上に繋がるはずである。

以上のように、各コース・学科全体とも教育目標に沿った創意工夫をし、良い成果は得られた。しかし、学生数減少に歯止めがかかっていない現実をしっかりと受け止めなければならない。ここ数年の入学者数を見てみると、2007年度入学者数65名をピークに減少の一途を辿っている。今後の音楽総合科では、従来の音

楽系大学の教育とは大きく方向性の異なった教育を目指すつもりである。通常の音楽系大学における教育内容は、ひとことで表せば「夢を追わせる教育」である。学生全員が「演奏家」など年に一人輩出できるか否かの専門職を目指すカリキュラムの中で学習している。そういった教育内容を否定する気持ちは毛頭ないが、本学音楽総合科においては、もう少し「現実」を踏まえた上での専門教育を行っていくつもりである。出口を明確にしたコース編成を検討し、それに伴いカリキュラムを抜本的に見直すつもりである。平成22年度新設予定の「リペアコース」は、まさにその象徴的なコースである。管楽器修理の技術を徹底的に学び、楽器業界の仕組み、流通などをも学んだ上で、楽器店業界のエキスパートとしての就職を目指すコースである。

この「リペアコース」を足掛かりに、今後更に斬新かつ実践的なカリキュラムとし、学生にとって満足度の高い教育を実践していくつもりである。

【デザイン美術科】

本科では教育目標に「学生とのコミュニケーションを深めること」と「学生個々の力量に応じた個別指導」を挙げた。

前者は教育の現場では当然のことながら、近年一層その必要を感じることから敢えて強く意識の上に乗せることとした。ここで述べるコミュニケーションは、学修を目的とする教師と学生の間にある関係に留まらない。学生は青年期特有の繊細さ、不安定さを例外なく内包している。他者とのコミュニケーションをとる姿勢は様々だが、いずれの学生にも何かしら個の持つ特有の味わいを引き出してやりたく思う。外の世界への関心の持ちようが、かつての情報交換の様態と比べ大きく変化している今、「対面するコミュニケーション」の意味は極めて大きいと感じる。

対話、理解の仕方は各教員の持ち味によって異なるが、共通して実践して来た行いである。これからの人生の途上で、数多の感情、価値観との出会いに後ずさりしないよう、対話によって僅かにでも心が開かれれば、と思っている。これは授業内外の日常に、些細なことの積み重ねで育まれる信頼関係を築くことから始まる。しかし、作品制作、進路・就職、学生生活等、科教員は親身に接してきたつもりでも、期待するほどのコミュニケーションを得られたかどうか、確信は持てない。また就職指導に関しては例年、難しさを脱却できないでいる。

制作指導がコミュニケーションの最大の媒介となることは学科の大きな利点である。作品は作品としての価値のみならず制作過程を含めて、時に内面を伺うことも出来る。諸角度から複層的に学生を見つめ、「コミュニケーション」に努めてきた。

「力量に応じた個別指導」は、特に実技・演習においては、個別指導を旨とすることから一定の成果は得られやすい。本科の入学者の技能、表現力、また理解力、基礎学力等には幅広い分布がある。学校という枠と限られた時間の中で、各々の能力を評価し助長するには、率直に言って同質同等の効果は期待できない。その前提のもとに個々を見る目は優しく、厳しく、時に甘やかしもあったかもしれない。各教員は忍耐と、喜びと、工夫をもって性情に応じた学生の力量の向上に臨んできたと思われる。学生の授業評価の概容を見ると、少数ではあるが諸点で批判的感情を示している。教員側との不一致が何に起因するか思い悩む。

二つの教育目標は互いに関連付けられている。効果は相乗的であり、互いに響き合った時、「人間性の豊かさ」に繋がるものと信じている。すべての人間の内にある「豊かさ」の芽が、美術領域習得の充実を伴いながら伸長してくれればと思う。「教育」はその結果を経年に俟たねばならない面を持つ。教壇は自己満足でも看過され得る。省みることを忘れず、定めた目標を謙虚に為すことができた

か、自信を持って記述を残せないのが本心であるが、学科教員は誠意を下地に学生とこの月日を過ごしてきた。

【歯科衛生科】

本学歯科衛生科では、豊かな教養と人間性を備え、口腔保健・医療・福祉の立場から人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、さらに他医療職種とも連携を取ったチーム医療を実践できる医療従事者としてリーダーシップを発揮できる人材を育成する事を教育目標とした。そして、具体的には以下の4項目を柱にして学生教育を実施し、以下のような成果を得た。

即ち、全身に関わる医学的知識をもった歯科衛生士の育成では、「臨床医学Ⅰ・Ⅱ」「看護演習」といったカリキュラムをもとに基本的な医学知識を修得させることができ、他の医療職種と連携してチーム医療の一員として活躍できるように養成した。また授業の一環として、本学主催の公開講座「口腔疾患シンポジウム」に学生を参加させ、全身の病気と口腔疾患の密接な関連性について修得させる事ができた。次に、口腔の健康を支援できる歯科衛生士の育成では、専門科目である臨床歯科医学や口腔保健学の領域において歯科衛生の専門的知識と操作的技術を身につけさせ、う蝕や歯周病に対する予防やメンテナンスの基本が行えるようにした。そして、コミュニケーション能力の開発では、総合教養演習やコミュニケーション演習などの専門科目でコミュニケーション技法を修得させ、ホスピタリティー・マインドを持った対人関係能力の向上に重点をおいて教育を行う事ができた。最後に、介護技術能力のある歯科衛生士の育成では、「介護技術演習」や「口腔機能回復支援法」等で在宅や社会福祉施設で介護を必要とされている方に対して、専門的口腔清掃や口腔リハビリテーション、あるいは介護予防における口腔機能向上がなされるよう教育を行った。さらに臨床・臨地実習では岐阜県や大垣市の地元の歯科医師会はもとより、隣県の歯科医師会との連携の基に歯科医院での研修を充実させて、臨床実習指導者から良好な評価を得ている。6月の「歯の健康フェスティバル」、10月の「市民の健康広場」などで市民に対して歯科保健における集団指導を行い、学内での学習成果を十分に示す事ができた。総合病院の歯科・口腔外科、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、保健センター、保育園・幼稚園、学校などでの実習機会も多く取り入れ、歯科衛生士としての総合的な臨床能力を育成する事ができた。

この教育体制の中、学生からの授業評価アンケートでは概ね良好な結果を得たが、全教員が年度当初に立てたFD目標に照らして授業評価の分析を実施し、課題を整理し改善を行った。また、3年間の教育の総決算として重要な意味をもつ歯科衛生士試験（国家資格）において、昨年度と同様に平成20年度も100%の合格実績とすることができた。さらに昨年度の大垣市民病院への就職に引き続き、平成20年度には大垣市保健センターといった公的機関への就職実績をあげた。卒業生の満足度調査においても良好な結果を得ており、特に保護者からの評価も4科においても特に高い評価を得ている。特に「専門的知識・技術の修得度」については、両者とも95%以上の高い肯定的回答を得た。歯科医院等からの第2者評価においても、ほとんどの項目で3年制教育の成果について肯定的評価を得ることができた。

最後に、豊かな教養と専門性に裏づけられた短期大学士の学位と歯科衛生士の国家資格の取得において、その中身の質の向上に来年度からも継続的に取り組んでいきたいと考えている。

Ⅲ 財務の概要

1. 財務運営について

(1) 中・長期の財務計画について

平成16年度から5年間の中期計画として、「各建物・設備等補修整備事業」をすすめ、より良い教育環境・明るく楽しいチャージングキャンパスづくりを実施している。この中期計画の完成年度である本年度については、G号館のトイレ改修工事を実施した。

また、「教育環境整備事業」については、各学科の大規模事業は平成19年度をもって完了したものと考え、本年度は収入の大幅な減少もあり大規模な事業は実施していない。

※G号館……歯科衛生科研究室及び教室、実習室

(2) 事業計画と予算の決定過程について

経営会議にて、次年度の事業計画及び予算方針を策定し、予算単位ごとに予算案を作成、理事会にて承認の後、予算会議にて各部門長に趣旨説明を行い、部門ごとに予算要求書を作成する。総務課にて、予算要求を取りまとめ、経営会議にて調整した後、評議員会・理事会の承認を経て予算を決定している。

(3) 決定した予算の各部門への伝達方法・予算執行に係る経理、出納の業務の流れ

理事会での承認後、文書にて各部門長にそれぞれの予算要求項目について、決定額を通知する。

各部門より予算執行がある時は、すべての行事及び10万円以上の実施については、実施決裁の起案をおこし、承認後、会計伝票及び会計伝票に添付された証憑書類を確認し、出納する。

支払い決裁は、5万円以上のものは事務局長、10万円以上のものは財務担当理事の決裁としている。

また、適正に運用されているかを認識できる形式にて記録、予算管理を行っている。

財務諸規程の一覧

- ・経理規程
- ・奨学基金規程
- ・受贈に関する規程
- ・固定資産及び物品管理規程
- ・固定資産及び物品調達規程

(4) 重点施策について

○重点事業…… G号館のトイレ改修工事を28,770千円にて実施した。

○原価意識の徹底… 常に自己研鑽に努め、大学が地域社会・学生に果たすべき役割を思考しながら、競争力を保つために、最小費用にて最大の効果をあげるように検討し、原価意識の徹底を図った。

(5) 監事・公認会計士の監査状況

① 監事の監査内容の概要と監査状況

- 平成17年度 平成18年5月19日実施

事務局長より、決算の概要について説明を行い、続いて各監事からの質問に答え、適正な処理がなされていることの確認を受けた。

- 平成 18 年度 平成 19 年 5 月 15 日実施

事務局長より、決算の概要について説明を行い、続いて各監事からの質問に答え、適正な処理がなされていることの確認を受けた。

- 平成 19 年度 平成 20 年 5 月 12 日実施

事務局長より、決算の概要について、平成 19 年度における特殊な事項を中心に前年度と比較をしながら説明を行い、その後各監事からの質疑に答え、平成 19 年度の決算について適正な処理がなされていることの確認を受けた。

- 平成 20 年度 平成 21 年 5 月 14 日実施

② 公認会計士監査

- 平成 17 年度 平成 18 年 6 月 20 日実施

決算書類について監査を受け、適正であると報告を受けた。

- 平成 18 年度 平成 19 年 6 月 20 日実施

決算書類について監査を受け、適正であると報告を受けた。

- 平成 19 年度 平成 20 年 6 月 23 日実施

決算書類について監査を受け、適正であると報告を受けた。

- 平成 20 年度 平成 21 年 4 月 13・14 日予備監査実施

公認会計士の監査は、月次監査として毎月受けている。また、監事監査前に公認会計士の予備監査を受けた後、監事の監査を受ける仕組みになっている。過去、公認会計士に指摘されるような事項は無い。

(6) 財務の公開について

平成 17 年 4 月私立学校法改正以前の昭和 57 年度決算より、理事会広報にて、財務公開を行っている。また、現在は総務課に財務書類を用意し、関係者の要請があれば、財務書類を閲覧できるようにしている。

また、平成 18 年度より、決算情報(平成 17 年度分～)をホームページにて公開している。

(7) 資金保有と運用について

学校における資金は、学生の教育に還元されるべきものであることから、保有・運用については安全性を最優先として、国債・地方債・銀行預金等で運用しており、本年度末における時価評価損はない。

(8) 寄附金・学校債の募集

寄附金・学校債の募集は行っていない。

2.資金収支計算書及び消費収支計算書の概要

(1)資金収支の概要

学生生徒納付金収入

(単位:円)

区 分	本年度決算	前年度決算	増 減	備 考
幼 児 教 育 科	64,555,000	156,980,000	△ 92,425,000	
音 楽 総 合 科	130,500,000	138,575,000	△ 8,075,000	
デザイン美術科	176,905,000	147,975,000	28,930,000	
歯 科 衛 生 科	113,890,000	164,460,000	△ 50,570,000	
合 計	485,850,000	607,990,000	△ 122,140,000	

寄付金収入

(単位:円)

区 分	本年度決算	前年度決算	増 減	備 考
特 別 寄 付 金	5,390,000	29,623,525	△ 24,233,525	学外研修助成(保護者会)他 前年度学外研修助成・調理室移転工事助成 (保護者会)他

補助金収入

(単位:円)

区 分	本年度決算	前年度決算	増 減	備 考
国庫補助金 日本私立学校振興・ 共 済 事 業 団 文 部 科 学 省	99,279,000	108,916,000	△ 9,637,000	平成20年度 経常費補助金一般補助 65,555,000 経常費補助金特別補助 31,374,000 大学改革推進等補助 2,350,000 平成19年度 経常費補助金一般補助 66,745,000 経常費補助金特別補助 42,171,000
地方公共団体補助金 岐阜県(結核予防)	62,622	82,170	△ 19,548	
合 計	99,341,622	108,998,170	△ 9,656,548	

主たる項目の収入状況

(単位:円)

区 分	本年度決算	前年度決算	増 減	備 考
手 数 料 収 入	5,728,570 志願者数 158	7,735,310 志願者数 218	△ 2,006,740	
資 産 運 用 収 入	14,239,162	12,443,677	1,795,485	受取利息配当金・施設設備利用料
事 業 収 入	2,599,562	836,250	1,763,312	マンガ事業他 大垣市子育てサロン運営調査研究
資 産 売 却 収 入	110,160,000	60,290,000	49,870,000	国債(有価証券)満期分表示
雑 収 入	2,563,901	2,084,871	479,030	保育士試験報酬等

人件費支出

(単位:円)

区 分	本年度決算	前年度決算	増 減	備 考
役 員 報 酬	15,711,996	20,214,879	△ 4,502,883	
教 員 人 件 費	313,246,263	319,171,928	△ 5,925,665	20年度36名 19年度36名
職 員 人 件 費	102,621,693	105,430,841	△ 2,809,148	20年度19名 19年度20名
退 職 金	0	523,673	△ 523,673	19年度1名
合 計	431,579,952	445,341,321	△ 13,761,369	

経費支出

(単位:円)

区 分	本年度決算	前年度決算	増 減	備 考
教育研究経費①	97,868,620	111,668,687	△ 13,800,067	19年度老朽化建物解体工事費 約1,400万
管 理 経 費 ②	71,217,762	68,215,291	3,002,471	
内 補 助 活 動 支 出 ③	856,200	365,000	491,200	マンガ制作費等
正味管理経費(②-③)④	70,361,562	67,850,291	2,511,271	
合 計 ①+④	168,230,182	179,518,978	△ 11,288,796	

施設設備等支出

(単位:円)

区 分	本年度決算	前年度決算	増 減	備 考
施 設 関 係	29,159,732	87,505,445	△ 58,345,713	トイレ改修工事 歯科衛生科棟 約2,800万 幼児教育科棟高架水槽取替工事 約130万 前年度空調工事 各建物 約2,700万 トイレ改修工事 デザイン美術科棟 約4,800万
備 品 関 係	10,014,592	23,111,229	△ 13,096,637	パソコン教室、パソコン機器購入等 前年度幼児教育科音楽棟電子ピアノ・図書館システム入替等
合 計	39,174,324	110,616,674	△ 71,442,350	

次年度繰越支払資金

(単位:円)

区 分	本年度決算	前年度決算	増 減	備 考
自 己 資 金	492,021,845	555,783,539	△ 63,761,694	
前 受 金	168,223,665	217,832,425	△ 49,608,760	
合 計	660,245,510	773,615,964	△ 113,370,454	

(2)消費収支の概要

収入の部(寄付金)

(単位:円)

区 分	本年度決算	前年度決算	増 減	備 考
現 物 寄 付 金	3,481,444	2,454,868	1,026,576	卒業記念品(学生会)他

支出の部(資産処分差額)

(単位:円)

区 分	本年度決算	前年度決算	増 減	備 考
資 産 処 分 差 額	8,573,316	25,762,252	△ 17,188,936	固定資産除却分

3.貸借対照表の概要

平成21年3月31日現在

(単位:千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	4,068,675	流動負債	182,143
有形固定資産	2,746,078	未払金	(8,189)
土地	(509,303)	前受金	(168,224)
建物	(1,654,241)	その他の流動負債	(5,730)
構築物	(173,874)		
教育研究用機器備品	(93,516)		
その他の機器備品	(24,831)		
図書	(289,768)		
車両	(545)	負債の部合計	182,143
その他の固定資産	1,322,597		
流動資産	687,176	基本金の部	5,669,231
現金預金	(660,246)	第1号基本金	(5,369,231)
未収入金	(1,856)	第2号基本金	(0)
有価証券	(23,835)	第3号基本金	(200,000)
その他の流動資産	(1,239)	第4号基本金	(100,000)
		消費収支差額の部	△ 1,095,523
		翌年度繰越消費支出超過額	△ 1,095,523
資産の部合計	4,755,851	負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	4,755,851

4. 資金及び消費収支計算書の経年比較

資金収支計算書経年比較

	H16(実績)	H17(実績)	H18(実績)	H19(実績)	H20(実績)	H21(予算)
資金収支計算書						(単位:千円)
学納金収入	770,179	796,592	694,890	607,990	485,850	425,000
手数料収入	14,816	11,987	10,551	7,735	5,729	5,700
寄付金収入	4,834	14,142	15,137	29,624	5,390	44,000
補助金収入	176,770	129,273	108,997	108,998	99,342	75,100
資産運用収入	10,166	7,664	11,154	12,444	14,239	12,000
資産売却収入	483	10,000	190,383	60,290	110,160	0
事業収入	9,867	6,620	4,799	836	2,600	5,000
雑収入	548	2,071	1,795	2,085	2,564	3,000
前受金収入	366,226	313,780	278,040	217,832	168,224	177,000
その他の収入	269,963	24,112	269,240	252,245	200,012	0
資金調整	-380,754	-366,979	-316,315	-278,213	-219,688	-199,000
計 A	1,243,098	949,262	1,268,671	1,021,866	874,422	547,800
人件費支出	813,690	612,908	838,835	445,341	431,580	419,000
教育経費支出	133,395	136,198	97,272	111,669	97,869	121,000
管理経費支出	99,433	83,606	87,424	68,215	71,218	76,000
借入金等支出	0	0	0	0	0	0
借入金返済支出	0	0	0	0	0	0
施設関係支出	76,538	18,815	53,636	87,505	29,160	102,500
設備関係支出	47,860	16,709	4,096	23,111	10,015	8,500
資産運用支出	70,000	150,000	240,662	229,843	250,009	0
その他の支出	262,292	33,165	15,792	61,861	107,521	20,000
予備費	0	0	0	0	0	20,000
資金調整	-25,181	-15,139	-27,607	-97,950	-9,580	-20,000
計 B	1,478,027	1,036,262	1,310,110	929,595	987,792	747,000
資金収支差額A-B	-234,929	-87,000	-41,439	92,271	-113,370	-199,200

消費収支計算書経年比較

	H16(実績)	H17(実績)	H18(実績)	H19(実績)	H20(実績)	H21(予算)
消費収支計算書						(単位:千円)
学納金	770,179	796,592	694,890	607,990	485,850	425,000
手数料	14,816	11,987	10,551	7,735	5,729	5,700
寄付金	7,750	20,208	24,542	32,078	8,871	46,000
補助金	176,770	129,273	108,997	108,998	99,342	75,100
資産運用収入	10,166	7,664	11,154	12,444	14,239	12,000
資産売却差額	483	0	239	290	61	0
事業収入	9,867	6,620	4,799	836	2,600	5,000
雑収入	10,026	2,071	1,795	2,085	2,564	3,000
帰属収入計	1,000,057	974,415	856,967	772,456	619,256	571,800
基本金組入	-165,115	0	-28,147	0	-98,648	-100,000
消費収入計 C	834,942	974,415	828,820	772,456	520,608	471,800
人件費	730,078	548,175	613,027	445,341	431,580	419,000
教育経費	240,193	237,298	191,564	205,168	195,401	219,000
管理経費	126,390	107,597	106,894	85,253	85,798	91,000
借入金等利息	0	0	0	0	0	0
資産処分差額	11,610	21,847	11,687	25,762	8,573	2,000
徴収不能引当金繰入額	0	0	10	0	0	0
予備費	0	0	0	0	0	10,000
消費支出計 D	1,108,271	914,917	923,182	761,524	721,352	741,000
消費収支差額 C-D	-273,329	59,498	-94,362	10,932	-200,744	-269,200